

ジャーナリズムから捉える医療福祉の学び

修士課程1年 鈴木莉歩

全15回の講義を振り返り、ゆきさんによるジャーナリズムとアカデミズムの違いの講義から始まり、矯正医官や研究員、小規模多機能型事務所の管理者、医師、市長、学長など様々な人の講義から学びを得ることができました。

どの講師の方も、自分の価値観や行ってきた具体的な取り組み、取り組みを実施するプロセスなどについて話してくださり、毎回関心を持って講義を聞くことができました。そして、医療福祉の現状やその対策、体制の構築について、今までの歴史や事件などについて詳しく理解しました。

医療福祉は、地域共生社会を目標に進展している支援もあるものの、不正や事件もたくさん発生している現状です。講義の中で説明いただいたものの中には、真意が明確ではないものもあると思います。そのため、事件の発生や真意が分かっていることもあると理解する必要があります。客観的に物事を捉え、今後どのような改善が必要であるか、どの部分を自分は探究していくか、人に情報を共有するときどのように伝えていくかなど、考えて行動していくことの重要性を実感できた講義でした。

私は、現在保健師を目指して大学院で日々勉強に励んでいます。

保健師は、地域住民の健康を守るため、その人らしい幸福な生活を支えるために尽力する仕事です。また、保健師の対象は、地域住民から地域全体、子どもから高齢者、疾患をもつ人やたない人などと幅広いです。講義の中の1つのテーマである介護保険制度に関しては、現場の人間として実施による現状や改善が必要な点など声を挙げていくことが求められると考えます。

また、地域づくりや医療福祉施設との連携、住みやすい地域をつくる上でのノーマライゼーション、住民を支える体制づくりなど、講義で得た学びは保健師活動でも重要であり、現在の状況や施策について理解を深められました。地域住民の方が知らないような事件もあれば、知らない人はいないのではないかとされるほど知れ渡っている話題もあります。

重要なのは、その情報を地域住民がどのように捉え、その事象に関する行動をどのように起こそうとしているかだと考えます。地域住民への支援の提供や働きかけは保健師の役割でもあるため、自分自身が情報に敏感になりつつ、地域住民への配慮も忘れず活動できるよう意識していきたいと思います。

ゆきさん、貴重なお話をたくさんしてくださり、また素敵な講師による講義を設定してくださり、ありがとうございました。

医療福祉ジャーナリズム特論を通して得た学びを、今後の講義や仕事に就いてから私の知識の資源として活用していきたいと思います。